

島根県におけるパーキンソン病 初期スクリーニング事業の成果

たかもと まさこ¹⁾ こばやし しょうたい²⁾ か も なお み
高 本 雅 子¹⁾ 小 林 祥 泰²⁾ 加 茂 尚 美³⁾
いと が ひろ ゆき⁴⁾ あ だち よし き⁵⁾ いり え ひで き⁶⁾
糸 賀 浩 之⁴⁾ 足 立 芳 樹⁵⁾ 入 江 秀 樹⁶⁾

キーワード：パーキンソン病，島根県，スクリーニング，
かかりつけ医，難病医療連絡協議会

要 旨

神経系特定疾患の中で最も多いパーキンソン病は高齢化と共に増加しており，早期診断，早期治療の必要性が強調されている。島根県難病医療連絡協議会では住民およびかかりつけ医に特徴的の症状を認知して貰うためポスター等による啓発と，初期診断に役立つ簡単なスクリーニングシートを作成し，県医師会等の協力のもと，医療従事者の研修会も行うことでパーキンソン病の早期発見・早期支援を行うことを目的として本事業を行った。その結果，しまね難病相談支援センターにおけるパーキンソン病関連の相談件数が3倍に増加，パーキンソン病関連特定疾患の新規申請件数も過去3年の平均の2倍と増加した。これらの結果は本事業がパーキンソン病のスクリーニングに有効であったことを示しており，今後もこの成果が活かされることが望まれる。

はじめに

パーキンソン病は，有病率10万人あたり，約100人と，厚生労働省の特定疾患治療研究事業の

対象疾患の中でも対象者が比較的多い病気である。島根県においても特定疾患医療受給者証交付件数を疾患別にみると，パーキンソン病の受給者数は816名と最も多く，その内の4人に1人（198人）が重症患者であり，受給者数に対しての重症度の割合も高い。（平成19年3月末現在）

しかし，パーキンソン病は確定診断のための検査はなく，特徴的な神経所見が有力な診断の根拠となるが，症状を老化現象などと捉え受診が遅くなる状況もある。

そこで，ポスター等によりパーキンソン病を住

Masako TAKAMOTO et al.

- 1) 元しまね難病相談支援センター難病医療専門員
 - 2) 島根県難病医療連絡協議会長・島根大学医学部附属病院長
 - 3) 元島根県健康福祉部健康推進課母子難病支援グループリーダー
 - 4) しまね難病相談支援センター長
 - 5) 島根県難病医療連絡協議会平成20年度難病医療支援システム小委員会委員長・国立病院機構松江医療センター神経内科医長
 - 6) 島根県難病医療連絡協議会平成19年度難病医療支援システム小委員会委員長・安来市立病院神経内科部長
- 連絡先：〒693-8501 島根県出雲市塩冶町89-1

民に啓発し、また、初期診断に役立つ簡単なパーキンソン病スクリーニングシートを作成・活用することで、パーキンソン病の早期発見・早期支援を行い、患者の重症化を予防することを目的として本事業を行ったので報告する。

対象と方法

平成19年9月1日に事業開始し、まず「啓発」を目的として、ポスター、パンフレットを医療機関・保健所・市町村等関係機関に配布し、広く県民にパーキンソン病の知識を普及することにより受診を勧奨した。

また、県医師会及び郡市医師会等の協力のもと、保健所主催で医師及び療養支援関係者を対象にしたパーキンソン病に関する研修会を開催した(図1)。

初期診断に役立つ簡単なパーキンソン病スクリーニングシート(図2)を作成し、以下の流れでスクリーニングの実施を行った。

- ① かかりつけ医は、パーキンソン病が疑われる患者に対し、パーキンソン病スクリーニングシートを使用し神経内科医へ紹介する。この際、神経内科医への紹介状にスクリーニングシートを同封する。
- ② 神経内科医は、スクリーニングシートに診断結果を記入し、しまね難病相談支援センターへFAXする。また、初診で神経内科医を受診した患者に対しては神経内科医がスクリーニングシートを記入し、しまね難病相談支援センターへFAXする。
- ③ 神経内科医は別に定めるパンフレットを活用し患者へ情報提供を行う。
- ④ スクリーニングシートの診断結果については、しまね難病相談支援センターが集計する。

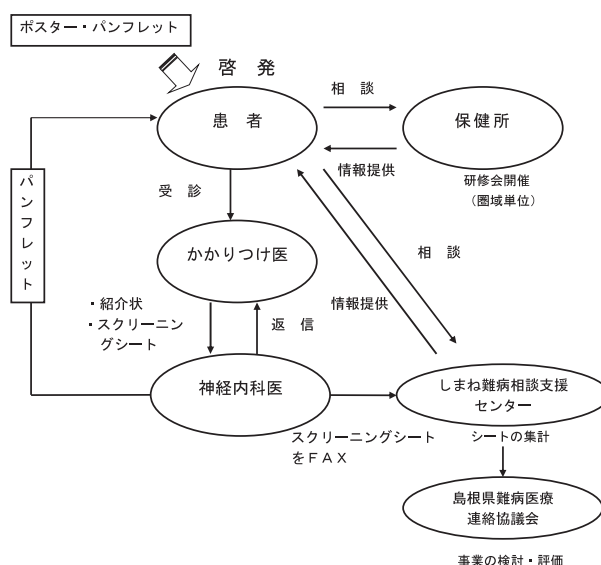


図1 事業の流れ図

パーキンソン病のポスター(1,500部)及びパンフレット(医師用1,500部、患者用2,000部)を作成し、県内医療機関、保健所、市町村、薬局等関係機関(約800ヶ所)に配布した。これらの事業結果を難病医療支援システム小委員会にて報告し、検討、評価した。

結 果

1. 「パーキンソン病の診断と治療」について保健所単位で関係者研修を開催した。開催状況について表1に示す。
 - 1) 参加総数343名で、その内、医師の参加は4割の140名であった。
 - 2) 医師の内訳は、病院41名(参加医師の3割)、診療所99名(参加医師の7割)であった。
2. スクリーニングシートの集計結果を表2に示す。
 - 1) スクリーニングシートの返信は40件であり、かかりつけ医から専門医への紹介は23件であった。

パーキンソン病スクリーニングシート

～パーキンソン病早期発見のために～

次の5項目の内、1項目でもあてはまれば神経内科医への紹介をご検討ください。

次の5項目の内、当てはまるものにチェックをしてください。

じっとしていると手足などがふるえる。

歩き方が遅く、歩幅が小刻みになった。

動作がにぶく、ボタンをとめるのに時間がかかる。

顔の表情が硬い。

手関節を動かすとカクカクとした抵抗感がある。

かかりつけ医記載欄

平成 年 月 日
 受診医療機関 ()
 担当医師 ()
 このシートを紹介状に同封してください。

神経内科医記載欄

しまね難病相談支援センター 行き
 (FAX: 0853-22-6498)

 平成 年 月 日
 医療機関名 ()
 担当医師 ()

結果につきまして下記にご記入いただき、このシートを
 難病相談支援センターまでFAXしてください。
 ご協力よろしく申し上げます。

結果 パーキンソン病 (ほぼ確定 ・ 疑わしい ・ 可能性あり ・ 否定的)

パーキンソン病でない場合の診断名 ()

問い合わせ先

しまね難病相談支援センター (出雲市塩冶町 223-7)

TEL: 0853-24-8510 FAX: 0853-22-6498

パーキンソン病初期スクリーニング事業
島根県難病医療連絡協議会・島根県

図2 使用したスクリーニングシート

表1 研修会実施状況と参加状況

圏域	研修日程	参加者	医師
松江	平成19年9月6日	47	34
出雲	平成19年10月15日	68	32
雲南	平成19年11月29日	38	7
県央	平成19年10月11日	28	21
	平成19年12月12日	23	
浜田	平成20年2月16日	69	15
益田	平成19年10月26日	70	20
隠岐	個別に説明		
	計	343	140

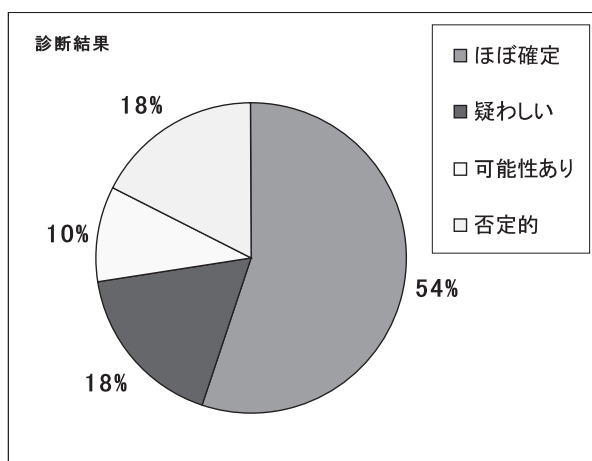


図3 診断結果の分布図

表2 受診方法（件）

	かかりつけ医からの紹介	直接専門医を受診
松江	3	3
雲南		
出雲	5	11
県央		
浜田	4	
益田	10	3
隠岐	1	
計	23	17

表3 診断結果

診断結果	件数
ほぼ確定	22
疑わしい	7
可能性あり	4
否定的	7

2) 診断結果は、ほぼ確定が5割、疑わしい・可能性ありで3割、否定的は約2割であった（表3）。頻度分布は図3に示す。

3) ほぼ確定以外で、パーキンソン病でない場合の診断名は

本態性振戦3名、薬物性パーキンソン症候群2名、血管性パーキンソニズム1名、正常圧水頭症1名、軽度認知障害（MCI）1名、不明2名であった。

3. しまね難病相談支援センターにおけるパーキ

ンソン病関連の相談件数は158件となり平成18年度の46件に比べて3倍以上と大幅に増加した。

4. 特定疾患治療研究事業のパーキンソン病関連疾患の新規申請者数を表4、表5に示す。

1) 事業期間（平成19年9月1日から平成20年

表4 特定疾患受給申請者新規申請者数の月別推移

年・月	新規申請数 （全疾患）	新規申請数 （うちパーキンソン病関連疾患）	受給決定数	
			（うち重症）	
H19,9	57	19	13	0
10	43	5	2	1
11	64	17	16	0
12	42	14	13	2
H20,1	39	8	7	0
2	51	11	10	2
3	48	12	9	0
4	41	12	10	0
5	54	13	12	3
6	54	8	7	1
7	44	18	16	1
8	63	20	14	2
計	600	157	129	12

8月31日)における新規申請者数は157件であった(表4)。

2) 新規申請者数は各年度4月1日から3月31日の申請者数を示す。平成19年度は前年度まで(過去3年間)に比し約2倍に増加した(表5と図4)。

考 察

本事業の大きな目的を「パーキンソン病の啓発」としポスターやパンフレットを作成し県下関係機関、約800ヶ所に郵送した。ポスターには「老化現象とあきらめないで!パーキンソン病の症状は治療でかなり良くなります。」の言葉をいれ、主な症状をイラストでわかりやすく示し症状がある時は医師に相談するよう記した。

パンフレットは医師用、患者用の2種類作成した。医師用パンフレットには早期パーキンソン病治療ガイドラインや新薬の情報、治療の見直しの情報等を掲載した。

医師用、患者用共に公的援助や相談窓口の紹介、患者会の情報について掲載した。

本事業期間中の、しまね難病相談支援センターにおけるパーキンソン病関連の相談件数は158件であった。平成18年度の相談件数の46件に比し、約3倍の増であった。

本事業に先立って平成19年3月全国パーキンソン病友の会島根県支部の設立、平成19年4月にパーキンソン病治療薬の新薬の発売等あったことも相談件数の増加に繋がったと考えられ、本事業は非常にタイムリーであったといえる。

次に保健所と郡市医師会の協力のもと「パーキンソン病の診断と治療」について随時研修会を開催した。参加者総数343名、うち医師の参加は140名で参加者全体の約4割を占め、医師の関心の高

表5 パーキンソン病関連疾患新規申請者数の年度別推移

	新規申請者数(4月から3月)
平成16年度	60
平成17年度	68
平成18年度	76
平成19年度	135

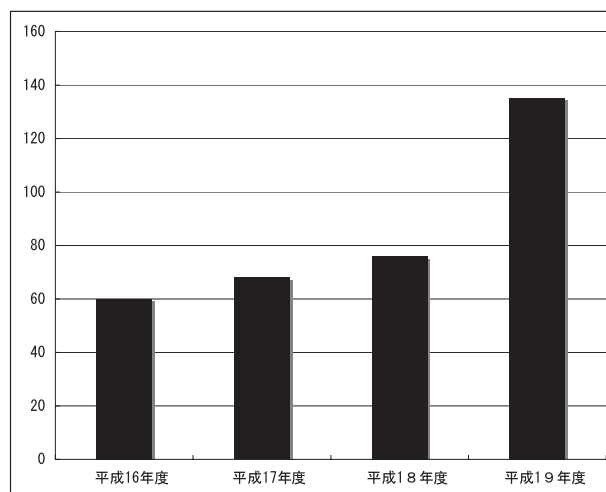


図4 パーキンソン病関連疾患新規申請者数年度別推移 (人)

さが伺える結果であった。

以上のポスターやパンフレットの作成・活用、研修会の開催等により啓発という目的は達成できたといえる。

平成16年度～平成19年度(4月1日～3月末日)における、特定疾患治療研究事業のパーキンソン病関連疾患の年次別新規申請件数をみると、平成19年度が135件と過去3年間に比し約2倍の増であった。これを本事業期間(平成19年9月1日～8月末日)で見ると、新規申請件数は157件と、最も多い結果となった。

島根県における高齢化率の推移を見ると平成16年度は26.7、平成17年度27.1、平成18年度27.6、平成19年度28.2と年々やや増加しているものの大きな変化ではない事から、新規申請件数の増加

は、潜在していたパーキンソン病患者の掘り起こしのできた結果といえる。

上記の相談件数・新規申請件数の大幅な増加は本事業がパーキンソン病の早期発見、早期支援に成果を上げ、当初の目的を達成したと考えられる。

直接専門医を受診した件数は17件/40件 (約4割)、かかりつけ医からの紹介：23件/40件 (約6割)であった。診-診連携はとれているものの地域によって差があることがわかった。診断結果をみると「ほぼ確定」が5割、それ以外の診断

(疑いあり・可能性あり・否定的)が5割であった。パーキンソン病が疑われる特徴的な症状があっても他疾患の可能性もあり、診断に苦慮する例が少なくない。スムーズな診-診連携は早期発見・早期支援に繋がる。また、診-診連携と同じく他の関係機関や他の職種との連携も早期発見・早期支援において重要である。パーキンソン病のみにとどまらず、他の神経疾患、神経難病の早期発見・早期支援にも本事業の成果が活かされていくことを期待する。

参 考 文 献

- 1) 村田美穂：パーキンソン病の治療戦略. 早期患者への治療方針. 内科 99 : 787-791, 2007
- 2) 近藤智善, 石口 宏：パーキンソン病の診察と鑑別診断 内科99 : 779-786, 2007
- 3) 田代邦夫：よくわかるパーキンソン病のマネジメント. 医薬ジャーナル社, 大阪, 2002
- 4) 島根の健康福祉2008 : <http://www.pref.shimane.lg.jp/kenpukusomu/kenkoufukushi/>